

(1) 子どもの権利について学ぶ機会の提供等

取組名	取組概要	対象	担当課
「三重県子ども条例」推進・啓発等の実施	出前トークを実施し、「三重県子ども条例」の理念や条例に基づく取組に県民の方がより一層理解を深め、子どもの育ちへの支援を学んでいただけるように取り組んだ。また、「三重県子ども条例」の施行から10周年を迎えたことを契機として、子どもの権利について子ども自身が学び、意見を表明できる機会を提供する取組として、子どもの権利ワークシート及びデジタル絵本を作成し、小学校等に配布した。	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
「子どもの権利ノート」の配付	新しく児童養護施設に入所する子どもに対し、施設での生活がどのようなものかなどを知り、一人ひとりが守られる存在であることを知ることができるように「子どもの権利ノート」を配付した。また、里親等に委託される子ども向けの「子どもの権利ノート」を新たに作成し、配布した。 (146人)	幼児・小学生～高校生	子ども・福祉部 子育て支援課
移動人権啓発事業	商業施設を利用してパネル展示、啓発物品の配布等を実施し、子どもの権利を含めた人権尊重の思想を県民に広めた。 (実施回数：5回、参加者数：380人)	子ども、大人	環境生活部 人権センター
三重県立図書館 児童コーナー、 ティーンズコーナー	子どもの知る権利の確保のため、児童書の新刊購入に努めるとともに、図書の閲覧、貸出、参考調査等のサービスの提供を行った。 ・児童等向け図書、雑誌購入(1,779冊) ・児童等向け図書、雑誌貸出冊数(個人貸出)(99,976冊)	子ども、大人	環境生活部 図書館
「命の大切さを学ぶ教室」の開催	教育委員会等の関係機関と連携し、中学生・高校生等を対象に、犯罪被害者等が講演者となり、子どもを亡くした親の思いや生命の大切さ等を直接生徒に語りかける「命の大切さを学ぶ教室」を開催し、犯罪被害者等への配慮・協力意識の醸成や次世代を担う若者の規範意識の向上に努めた。 (開催回数：15回、受講者数：3,676人(うち中高生：3,441人))	中学生、高校生、大学生および教員	警察本部 警務課

(2) 子どもが意見表明する機会の設定等

取組名	取組概要	対象	担当課
児童相談所におけるアドボカシー	平成30年度から、児童相談所職員等を対象にアドボケイト養成研修を行い、「職員の支援が子どもの自尊感情や自信を高め、困難な課題を自分で解決できるという気持ちを持たせる」「子どもが言いたいことを言う機会を持ち、耳を傾け、子どもの権利を保障する」といったアドボカシーの原則等を学んでいる。 また、一時保護所において、アドボケイトの試行的取組を実施している。	～高校生	子ども・福祉部 子育て支援課
キッズ・モニターアンケートの実施	県の施策に子どもの意見や状況を取り入れるため、子どもを対象にインターネットを用いた電子アンケートに回答していただく「キッズ・モニターアンケート」を実施した。(実施回数：6回) (テーマ) ①コロナ禍における子どもの生活と子どもの権利について(子ども・福祉部) ②これからの公園について(県土整備部) ③食の安全・安心について(農林水産部) ④手話について(子ども・福祉部) ⑤ユニバーサルデザインについて(子ども・福祉部) ⑥キッズ・モニターについて(子ども・福祉部)	小学4年生～高校生	子ども・福祉部 子ども・福祉総務課
ありがとうの一行詩コンクールの実施	コロナ禍であらためて認識した家族や仲間などへの感謝の気持ちを伝えることをテーマに、ありがとうの一行詩を募集し、75作品を表彰した。(応募作品数：9,565作品)	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
明るい選挙啓発ポスターコンクール	選挙が明るく正しく行われるよう啓発用のポスターを募集し、県審査特選作品については中央審査(主催は(公財)明るい選挙推進協会、都道府県選挙管理委員会連合会等で文部科学省、都道府県教育委員会の後援)へ出品した。 (参加校数：県内14市町164校、参加者数：1,045人)	小学生～高校生	選挙管理委員会
人権メッセージ募集	県民が、差別をなくすために真剣に取り組み、県民一人ひとりが、人権啓発の主体者であることの意識付けにつながるよう人権メッセージを募集した。(取組件数：2,744件)	子ども、大人	環境生活部 人権センター
人権ポスター募集	県内の小中高等学校等の児童・生徒が人権について考え、表現する機会としてポスターを募集した。優秀作品により人権カレンダーの作成や巡回展示による啓発を行った。 (取組数：140校 取組数：22,118人)	子ども(小・中・高校生等)	環境生活部 人権センター
薬物乱用防止ポスター	薬物乱用を許さない社会づくりを推進するため、中学生、高校生から薬物乱用防止の大切さを同世代に訴えるポスターを募集し、入賞作品は県内で展示するとともに、三重県ホームページに掲載した。 (応募点数：1,428点)	中学生～高校生	医療保健部 薬務課
地球温暖化防止啓発ポスターコンクール	県民の地球温暖化防止への関心、意識を高めることを目的として、小・中学生を対象にポスターコンクールを実施した。 (応募者：小中学校 96校、1,700人)	小学生、中学生	環境生活部 地球温暖化対策課
野生生物保護啓発ポスターコンクール	ポスター制作を通して野生生物についての保護意識を高めるとともに、県民への普及啓発を図ることを目的として、小学生～高校生を対象にポスターコンクールを実施した。 (応募数：小・中・高等学校 109校、1,295人)	小学生～高校生	農林水産部 みどり共生推進課
全日本中学生水の作文コンクール	8月1日の「水の日」および8月1～7日の「水の週間」に合わせ、中学生が水について理解を深めるための取組の一環として「全日本中学生水の作文コンクール」を実施した。(テーマ：「水について考える」、三重県応募総数：481作品)	中学生	地域連携部 水資源・地域プロジェクト課
土砂災害防止に関する絵画・作文	土砂災害の防止と被害の軽減を図るため、国と各都道府県では、毎年6月を「土砂災害防止月間」として、各種の活動を実施した。その活動の一環として、小中学生を対象とした絵画・作文を募集し、優秀な作品を表彰する取組により啓発に努めた。 (応募数：小中学校8校、38件)	小学生～中学生	県土整備部 防災砂防課

取組名	取組概要	対象	担当課
河川・海岸愛護 ポスターの募集	川と海の役割や大切さについて理解と関心を深めるため、国と各都道府県では、毎年7月を「河川・海岸愛護月間」として、各種の活動を実施している。その活動の一環として、小中学生を対象にポスターを募集し、優秀な作品には知事賞・議長賞等の授与を行った。 (応募数：小中学校38校、233件)	小学生～ 中学生	県土整備部 河川課
国土と交通に関する 図画コンクール	人びとの生き生きとした暮らしと、これを支える活力ある経済社会、日々の安全、美しい良好な環境等を実現するためのハード・ソフトの基盤形成への理解を深めてもらう活動として、国の取組に呼応し、小学生を対象に図画を募集し優秀な作品を表彰することにより啓発に努めた。 (応募数：県内2校、13件)	小学生	県土整備部 県土整備総務課
交通安全メッ セージ運動	子どもが保護者等の身近な人と交通安全に関するメッセージ交換をすることで、子どもの交通安全意識を高め、家庭からの交通安全意識の向上を図った。 (参加者：29校(園)、2,482組)	子ども、 大人(主 に保護 者)	環境生活部 くらし・交通安全 課
ビブリオバトル 推進事業	ビブリオバトル(書評合戦)を活用した読書活動の推進(校内行事等への導入をはじめとした普及活動、ビブリオバトル大会の開催)により、中学生・高校生の思考力・判断力・表現力等の育成を図った。 (中学生・高校生ビブリオバトル大会及び普及活動参加校数：44校)	中学生 高校生	教育委員会事務局 社会教育・文化財 保護課



(3) 子どもが主体的に取り組むさまざまな活動の支援

取組名	取組概要	対象	担当課
人権まなびの発表会	学校で取り組んだ人権学習や人権に関する生徒の自主的な活動の成果を発表・交流する「人権まなびの発表会」を実施した。8校が参加し、6校の生徒が取組を発表した。各校の発表を後日、動画で配信し、希望する学校の生徒が視聴した。 ・実施日：11月7日 ・開催場所：三重県総合文化センター ・参加者数：50名（生徒及び教育関係者） ・動画視聴期間：11月15日～12月24日 ・視聴者数：116名（31校）	高等学校・特別支援学校高等部の生徒および教育関係者	教育委員会事務局 人権教育課
高校生フェスティバル	「三重県立高等学校産業教育フェア」「みえ高文祭」「三重県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」「高校紹介ひろば」を実施し、高校生が日頃の学習や文化活動等の成果を情報発信した。 ・実施日：11月5～7日 ・開催場所：三重県総合文化センター、イオンモール津南 ・参加生徒延べ約1,800人、一般来場者延べ約52,300人	子ども、大人	教育委員会事務局 高校教育課
みえの地物が一番！朝食メニューコンクール	小学生（5・6年生）および中学生を対象に、子どもたち自身が地場産物を使用した朝食メニューを考え、調理するコンクールを実施した。この取組を通して、子どもたちが自らの食生活に関心を持ち、望ましい食習慣を身に付けるとともに、地場産物や生産者についての理解を深めた。 (応募総数：小学生の部 1,507作品、中学生の部 5,671 作品、優秀賞各部5作品)	小中学校・特別支援学校の児童生徒	教育委員会事務局 保健体育課
三重県高等学校科学オリンピック大会	高校生が学校ごとのチームで、授業での学習をベースに生活に関連した課題に取り組むことにより、数学・理科・情報や科学技術に対する興味や関心を喚起するとともに、科学的な思考力・判断力・表現力等の育成を図った。 (10月16日開催 11校、11チーム 参加人数 88名)	高校1、2年生	教育委員会事務局 高校教育課
みえの子ども「夢☆実☆現」応援プロジェクト	子どもの創意あふれる熱い思いをもとに、夢の実現に向けて子ども自身が考え工夫しながら実施する活動について、県内企業などと支援を行い、5組の子どもが夢の実現に向けて取り組んだ。 また、みえの子ども「夢◇宣◇言」プロジェクトでは、子どもの将来の夢やいま取り組みたいこと等を宣言する動画を募集し、県ホームページで公開した。	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課
みえこどもの城の運営	みえこどもの城において、児童の健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に、児童に健全な遊びを提供した。（運営は指定管理にて民間団体に委託） ・プレイランドの遊具やカプラ（積み木）の設置 ・芸術分野や科学分野の工作メニューや紹介動画の提供 ・クライミングウォールの実施 ・各種イベントの実施	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
発明くふう展	子どもたちの発明・発見への関心をいっそう高め、ものづくりの楽しさや未来の科学への夢を喚起し、子どもたちの「科学の心」を育成することを目的として、子どもたちの発明に関する作品138点（工作79点、絵画59点）を展示する「発明くふう展」を開催した。 ・開催日：10月16日、17日 ・開催場所：津リージョンプラザ3階展示室 ・参加人数：346人	幼児～高校生	雇用経済部 ものづくり産業振興課
三重県環境学習情報センター	社会見学の見学、各種環境講座の実施等を通じて、環境保全に関する気づきや実践への機会を提供した。 ・見学視察、体験教室（学校関係103回、6,491人、一般46回、97人） ・夏休みこども環境講座（5回、109人参加）等 (環境教育参加者数：15,522人)	子ども、大人	環境生活部 地球温暖化対策課
キッズISO14000プログラム	小学校、企業、行政が連携してキッズISO14000プログラムに取り組むことにより、家庭を巻き込んだ環境保全活動を推進した。 (参加児童数：小学校5校、259人)	小学生、大人	環境生活部 地球温暖化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
花育の取組（フラワーラボコンクール）	中日新聞社と7県1市が主催となり、学校環境の美化と豊かな情操教育、花による地域の快適な環境作りなどに役立てることを目的に、小中学校等を対象とした学校花壇コンクールを開催した。 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学校花壇コンクールの審査・表彰は中止とし、その代替として、参加校が中日新聞社に花壇の作成報告を行い、作成記念の参加証や額縁付き写真パネルが贈呈された。 （FBC参加校数：53校　うち写真パネル贈呈校　小学校7校、中学校2校）	小・中学生	農林水産部 農産園芸課 教育委員会事務局 小中学校教育課
鈴鹿青少年センター主催事業「親子防災アウトドア体験」	予定していた野外炊飯は取りやめ、防災をテーマにした野外での体験活動を実施して、家族で防災について考える機会の提供を行った。 （実施日：5月22日、参加者数：9家族20人）	小中学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「わくわくファミリーキャンプ」	小中学生とその保護者が、親子で行う創作活動や野外炊飯等に挑戦して、家族で協力し目的を達成する体験を実施した。 （実施日：11月20日、参加者数：30人）	小中学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「ウィンターアドベンチャー」	小学生を対象に、鈴鹿青少年の森でのウォークラリーやクリスマスリース作りに挑戦して、自然の中での活動やものづくりの体験を実施した。 （実施日：12月4日、参加者数：30人）	小学生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター主催事業「わくわくファミリーキャンプ冬編」	小学生とその保護者が、アウトドアクッキングや自分で作った凧の凧あげ、宝探しラリーなどの屋外を中心とした日帰りキャンプを体験し、自然に親しみ家族で協力しあう作業を行った。 （実施日：1月8日、参加者数：12家族28人）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「春の野草ウォッチング」	小学生とその保護者が講師から野草の観察要領や注意事項の説明を受け、自然の家周辺を散策し、観察を行い、昼食には採取した野草の天ぷらや蕨入りのうどんに舌鼓をうち、春の味覚を味わった。 （実施日：4月3日、参加者数：9家族21人）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「ふれあいファミリー農園」	大自然の中で、親子で協力し、ジャガイモ掘りや野外炊事を行い、収穫の喜びを味わった。 （実施日：6月12日、場所：少年自然の家野外炊飯設備、参加者数：5家族13人）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「親子DEキャンプ」	親子でカヤック等のマリンスポーツや弓矢づくりを協力して行い、テント設営、野外炊事等を行った。 （実施日：7月24日、場所：新鹿海岸、参加者数：6家族21人）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「凧づくり教室」	施設スタッフが講師となり、参加者にはオリジナル凧づくりに挑戦してもらい、様々なイラスト等で仕上げ、午後からは海岸に場所を移し凧あげを行った。 （実施日12月12日、場所：自然の家、参加者数：9家族21人）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家主催事業「野鳥観察会」	双眼鏡やスコープで講師の指導、説明を受けながら、最後に講師と「鳥合わせ」を行った。その結果26種類の野鳥が観察されたことが確認された。 （実施日：1月16日、場所：御浜町志原水田、参加者数：9家族20人）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課

取組名	取組概要	対象	担当課
森林環境教育・ 木育の推進	<p>森林の持つさまざまな機能や木材利用への理解を深めるとともに森林教育について知っていただくため、学校等における出前授業の実施や、木や森林を活用した体験を通して子どもが木や森林について楽しみながら学べるイベント「森に集まれ！みえ森フェスタ2021」「森の学校」の企画・開催、木製玩具の展示・体験イベント「ミエトイ・キャラバン」の開催、森林をフィールドとして子どもたちが主体的に活動するプログラム「自然環境キャンプ」の実施、森林教育の指導者養成等に取り組んだ。</p> <p>（出前授業15回実施、「森に集まれ！みえ森フェスタ2021」開催日：11月20日、場所：三重県民の森、「森の学校」17回開催、「ミエトイ・キャラバン」2回開催、「自然環境キャンプ」1回実施、指導者養成講座 11回実施）</p>	子ども（小学生が主）、大人	農林水産部 森林・林業経営課



(4) 子どもの育ちを支える人材育成、環境整備

取組名	取組概要	対象	担当課
預かり保育の推進	私立幼稚園において、地域の実態や保護者のニーズに応じ、正規の教育時間開始前や終了後、および休業日に教育活動を実施するための人件費に対し助成を行った。 (助成私立幼稚園数：8園 令和3年度交付決定数)	学校法人	子ども・福祉部 少子化対策課
放課後子ども教室の推進	放課後児童対策の一つとして、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、活動場所を設け地域の方々の参画を得て文化スポーツ学習活動などの取組を支援し、子どもが地域社会の中で健やかに育まれる居場所を確保した。 (実施地域：20市町、教室数：74教室 放課後子ども総合プラン実施状況調査より)	市町	子ども・福祉部 少子化対策課
放課後児童健全育成事業の推進	放課後児童対策事業費補助金を支給する等、市町が行う放課後児童クラブ施策を支援した。 (実施地域：29市町、クラブ数：438クラブ 放課後子ども総合プラン実施状況調査より)	市町	子ども・福祉部 少子化対策課
保育士に対する研修の実施	新任保育士の資質の向上や就業継続支援を図るための研修、人権問題についての正しい知識を習得するための研修等を実施した。 (新任保育士就業継続研修：169人、人権保育専門講座：10市町、16講座)	保育士等	子ども・福祉部 少子化対策課
特別保育の促進	市町が実施する延長保育(私立166か所) (R3. 3. 31時点 延長保育等実施状況調査より)、病児保育(19か所) (R3. 4. 1時点) など多様な保育サービスを支援した。	市町	子ども・福祉部 少子化対策課
幼稚園教育研究協議会の開催	教員等の指導力を高め、本県における幼児教育の振興・充実を図るため、県内の国公立幼稚園、認定こども園、保育所、小学校の教員等、市町教育委員会等関係者を対象に、幼稚園の教育課程の編成及び実施や保育技術に関する専門的な講義、研究協議を行った。 (参加者数：245人)	幼稚園教諭等	教育委員会事務局 小中学校教育課
不登校対策事業	3地域の教育支援センターをモデルとしてスクールカウンセラー(S C)とスクールソーシャルワーカー(S S W)を配置し、専門的な支援を行うとともに、不登校支援アドバイザーの助言を得ながら訪問型支援を進めた。学校においては、全ての教員が不登校児童生徒一人ひとりの状況に応じた適切な支援が行えるよう、公立学校における支援事例をデータベース化し、運用を開始した。また、小中学校の連携による「魅力ある学校づくり」や、心の回復力を育むための「レジリエンス教育」の実践プログラムの作成に取り組んだ。さらに、民間施設(フリースクール等)で行われる体験活動への支援や、保護者を対象とした相談会を開催するなど、不登校児童生徒への多様な支援を進めた。	児童生徒 教職員 保護者 フリースクール 教育支援センター	教育委員会事務局 生徒指導課
スクールカウンセラー等活用事業	いじめや暴力行為等の問題行動、不登校や貧困など多様な課題に対応するため、スクールカウンセラー(S C)を各公立中学校区と高等学校、特別支援学校8校と各教育支援センターに配置した。また、学校からの要請に応じてスクールソーシャルワーカー(S S W)を派遣するとともに、S S Wが高等学校と中学校区を巡回し、関係機関との連携のもと、課題の解決に向けた支援を進めた。さらに、生徒の日常的な相談に対応するため、教育相談員を希望する中学校と県立学校に配置した。  【S Cの配置校：全151中学校区(小学校306校、中学校150校、義務教育学校1校)、高等学校56校、特別支援学校8校、教育支援センター20箇所】 【S S Wの配置：20人を県教育委員会に配置】 【教育相談員：中学校121校、県立学校24校】	児童生徒 教職員 保護者	教育委員会事務局 生徒指導課

取組名	取組概要	対象	担当課
みえの親スマイルワークの活用	教育委員会や三重県PTA安全互助会と連携し、親の役割や自身の成長について、気づき、学び合う機会を提供する参加型のプログラムである「みえの親スマイルワーク」を活用し、子育て支援センター、就学時検診等で、子育て中の親を対象にワークショップを開催した。 (実施回数13回、299人参加) また、コロナ禍で事業としてスマイルワークを実施することが難しいため、子育て支援センターの職員が適宜、ワークショップを行えるよう、市町職員向けの講習会を実施した。 (津市2回、松阪市1回)	大人	子ども・福祉部 少子化対策課
子育て家庭応援クーポン	地域の商店や企業の協賛による、18歳未満の子育て世帯及び妊娠中の世帯に対して割引やサービスの提供を働きかけた。 (協賛企業数：2,440店舗 令和4年3月末現在)	子ども、 大人	子ども・福祉部 少子化対策課
みえ次世代育成応援ネットワークの活動促進	社会全体で子どもや子育て家庭を支える地域を実現するために、地域の担い手である企業や子育て支援団体等が参画し活動している「みえ次世代育成応援ネットワーク」の会員拡大および活動促進を図った。 (会員数：1,592 令和4年3月末現在)	大人	子ども・福祉部 少子化対策課
子どもの育ち支援活動拠点の設置・運営	子どもの育ちを応援する「みえの子ども応援プロジェクト」の活動拠点として、商業施設に「よっかいちステーション」を設置し、毎週火曜日と第4土、日曜日に、企業や団体等がボランティアとして、おもちゃの病院、太鼓体験、工作など、親子がふれあいながら楽しむ機会を提供した。(来場者数14,200人)	子ども、 大人	子ども・福祉部 少子化対策課
県生涯学習センター講座	市町行政や関連施設等と連携しながら、地域の課題解決に向けた人材育成講座等を実施した。テーマは市町のニーズに基づき決定した。 ※子どもへの絵本の読み聞かせをテーマにした講座を実施 会場 ハイピア伊賀 6月12日 65人、11月26日 50人 ※学校図書館の運営についての講座を実施 会場 志摩市立図書館 1月12日 11人	大人(読書ボランティア等)	環境生活部 文化振興課
みえ子ども医療ダイヤル(#8000)	子どもの急な病気や事故、薬に関する心配について、医療関係の専門職員が電話相談に応じた。 ・相談時間：毎日19時30分～翌朝8時00分 ・相談件数：8,263件	大人	医療保健部 医療政策課
「女性が働きやすい医療機関」認証制度	子育て時の当直免除など女性の医療従事者が働きやすい環境づくりの促進を目的に、女性が働きやすい勤務環境の改善に積極的に取り組んでいる医療機関を認証しており、広く周知を図った。 ただし、令和3年度については、新型コロナウイルス感染拡大の影響による医療機関の負担等を考慮し、募集および審査を見送った。 (これまでに18医療機関を認証しており、令和4年度は募集を再開する見込み)	医療機関	医療保健部 医療介護人材課
いじめ電話相談	子ども、保護者等を対象にいじめ電話相談を実施した。 (相談時間：毎日24時間(365日)) ・いじめに関する相談件数 119件	子ども 保護者 等	教育委員会事務局 研修企画・支援課
教育相談	子ども、保護者、教職員を対象にプレイセラピーやカウンセリング等の面接相談、電話相談を実施した。 (相談時間：年末年始祝日を除く月水金9時～21時、火木9時～17時) ・電話相談件数 3,705件 ・面接相談件数 5,808件	子ども 保護者 教職員	教育委員会事務局 研修企画・支援課
体罰に関する電話相談	子ども、保護者等を対象に体罰に関する電話相談を実施した。 (相談時間：年末年始祝日を除く月水金9時～21時、火木9時～17時) ・体罰に関する相談件数 3件	子ども 保護者 等	教育委員会事務局 研修企画・支援課



取組名	取組概要	対象	担当課
子ども専用電話相談	子どもからの相談に対応する窓口として、子ども専用電話相談「子どもほっとダイヤル」を運営し、悩みを抱えた子どもの声を受け止め、子どもとともに状況や気持ちを整理しながら継続して相談を受け、子どもが自らの力を回復して解決していくことができるよう手助けを行った。虐待やいじめなど子ども自身の力だけでは解決できないような場合には、児童相談所や教育委員会等関係機関と連携して対応した。 ・フリーダイヤル ・相談時間：年末年始を除く毎日13時～21時 ・相談件数：1,026件	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課
妊娠レスキューダイヤルの設置	若年層の望まない妊娠で周囲に相談できない等子どもたちの悩みに対する電話相談窓口を運営するとともに、医療・保健・教育・福祉等関係機関が連携し早期からサポートすることで児童虐待の未然防止に努めた。 また、令和2年6月からは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり増加した若年層の予期しない妊娠に関する相談に対応するため、SNS相談も実施している。 ・相談時間：毎週 月・水 15:00～18:00、土 9:00～12:00 (年末年始、祝日を除く) ・相談件数：電話164件、LINE256件	若年層 (10歳代)	子ども・福祉部 子育て支援課
思春期保健指導セミナー	中高生の性や望まない妊娠等、思春期の子どもたちや家族が抱える性にまつわる問題を関係者が共通理解し、各々の機関で実践に活かす手法を学ぶ目的でセミナーを開催した。 (開催日：2月11日、開催形式：オンラインによるWeb及びYouTubeでの限定配信 参加者数：471人)	大人(医療関係者・教育関係者、保健関係者等)	子ども・福祉部 子育て支援課
給食施設巡回指導	給食を実施している保育所等児童福祉施設、私立幼稚園及び学校に栄養指導員が巡回し、管理栄養士、栄養士の配置及び適切な栄養管理等の実施について指導助言を行うとともに、食育の視点も捉えた指導を実施した。 ・巡回指導施設数：17施設	施設管理者および給食従事者	医療保健部 健康推進課
若年層の自殺対策推進体制構築事業	子どもの自己肯定感を高めるとともに、ストレスとの付き合い方や問題に遭遇した時、周囲に助けを求めることが大切であることを伝え、また、相談しやすい環境づくりや精神疾患への早期支援を地域の実情に応じて取り組んだ。 ・専門相談窓口の設置 新規相談件数 233件 ・アウトリーチ型支援 49件 ・教職員等を対象とした研修：2回、75名受講 ・生徒を対象とした自殺予防の授業：7回、1,177名受講 ・保健医療・教育関係者等を対象とした研修：1回、16名受講 ・関係機関による支援ネットワーク会議への参加助言等：2回	主に中高生およびその保護者・学校関係者	医療保健部 健康推進課
人権に関わる相談員スキルアップ講座等	人権の視点での県内各機関の相談員等の資質向上を図るため、人権に関わる相談員等スキルアップ講座を開催した。 ・講座「子どもの権利を基盤にした子どもとの関わり方～困窮世帯の子どもたちとの活動から見えること～」 「多様な性、家族のおもい～当時どうおもい、どう行動して、これからどうおもい～」2講座 (取組数：2講座、参加者数：91人)	大人(人権に関わる相談員)	環境生活部 人権センター
SNSを活用した相談	いじめをはじめとするさまざまな悩みを抱える子どもたちが、安心して学校生活を送ることができるよう、多言語でも相談できるSNSを活用した相談を実施した。 ・開設期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日 ・相談時間：平日午後5時から午後10時まで ・対象者：県内全ての中学生、高校生 ・相談件数：577件	子ども	教育委員会事務局 研修企画・支援課

取組名	取組概要	対象	担当課
子どもの心サポート事業	思春期の子どもたちの悩みや不安に対する理解と適切な支援が行えるよう、教育相談に関する研修講座を実施した。教職員の資質向上を図るとともに、学校では解決が困難なケースを中心に、カウンセリングや心理療法等の面接相談を実施した。 ・思春期の子どもの心を理解する研修講座数 3講座 ・思春期の子どもに係る面接相談件数 3,044件 教育相談に関する研修講座を実施し、児童生徒の心の問題に対する理解と適切な支援が行えるよう、教職員の資質向上を図った。また、学校における教育相談体制の確立に向けて、中核的リーダーを育成する研修を実施した。 ・教育相談に関する研修講座数 18講座 ・のべ受講者数 603人	子ども 保護者 教職員	教育委員会事務局 研修企画・支援課
生活困窮家庭の子どもの学習支援事業	生活困窮者自立支援法に基づき、県所管地域（多気町を除く郡部）の生活困窮家庭（生活保護受給世帯を含む）の中学生を対象に、学習習慣の確立、志望校への進学支援などの学習支援を行った。また、高校生をはじめ、高校を中退した人、中学校卒業後進学していない人（「高校生世代」という。）を対象に、進学、就労に向けた進路選択や再就学等の相談支援等に取り組んだ。 ・支援者数：高校生世代5人 中学生9人（うち中学3年生6人全員が高校進学）	中学生 高校生世代	子ども・福祉部 地域福祉課
日本語指導の充実	外国人生徒支援専門員を活用し、外国人生徒が社会的自立を果たし、社会の一員として活躍できるよう、課外授業等による学習指導や進路相談、放課後の日本語学習クラブ（年間19回）を実施した。また、日本語指導が必要な外国人生徒等の学習指導に係る情報について、調査票を活用して中学校から高等学校へ必要な情報の引継ぎを行う取組を進めた。 ・外国人生徒支援専門員の配置 6人（うち2人はコロナ対応） ・調査票を活用した中学校から高等学校への情報の引継ぎ 7市で実施	高校生、 教員	教育委員会事務局 高校教育課
多文化共生社会のための外国人児童生徒教育推進事業	日本語指導が必要な外国人児童生徒が、将来、社会の一員として自ら能力を発揮し活躍できるよう、外国人児童生徒の在籍が多い拠点校等のノウハウを生かした受入体制整備を進めるとともに、外国人児童生徒巡回相談員（令和2年度の14名から1名増員し15名）を派遣し、日本語指導、学校生活への適応指導の充実を図った。 さらに、ICTを活用したオンラインによる日本語教育を実施し、散在地域の児童生徒等の日本語教育の充実を図った。（利用者14名）	小中学生、 教員	教育委員会事務局 小中学校教育課
教職員研修	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善による授業力向上や教育課題への対応力等の専門性について、経験や職種に応じた研修を実施した。また、言語活動を中心とした授業づくりのための英語指導力向上の研修、1人1台端末等を活用した授業実践をするためのICT活用指導力向上の研修を実施した。学校改善や授業研究を推進できる人材を育成する研修、日本語指導を地域や学校において推進できる人材を育成する研修を実施し、中核的リーダーを育成した。  ・実施講座数 568講座 （内訳）集合研修 172講座 遠隔研修 375講座 中止 21講座  ・受講者数 40,483人	教職員	教育委員会事務局 研修企画・支援課 研修推進課
個に応じた指導（みえスタディ・チェックのCBT化）	○令和3年度第2回みえスタディ・チェックから、学習端末を活用し、CBT（Computer Based Testing）で実施した。CBTで実施することにより、児童生徒は、実施後すぐに設問ごとの正解・不正解を確認するとともに、正解の場合は、さらに難しい問題を、不正解の場合は、学習内容を遡った問題を提供し、一人ひとりの定着度に合わせたきめ細かな指導を進めた。 ○授業や朝の学習、補充学習で活用できる「割合」「図形」「読む力・伝える力」の問題をCBT化して児童生徒の学習端末に提供した。問題を解答して、正解の場合は、さらに難しい問題を2問、不正解の場合は、学習内容を遡った問題を2問提供した。	小中学校 教職員  小中学校・特別支援学校の児童生徒	教育委員会事務局 学力向上推進PT



取組名	取組概要	対象	担当課
子どものつまずきに対応したワークシート等の提供	○授業改善の充実を図るため、学習指導要領の趣旨や内容に基づき、みえの子どもたちのつまずきに対応したワークシート集「学-Viva!!セット」を年3回県内小中学校に冊子で提供した。学-Viva!!セット2月提供分(第22弾)については、紙媒体の他、小学校第5学年および中学校第2学年の学習端末にも提供した。 ○三重県教育委員会がこれまで作成し紙媒体で提供していた小学校第4学年から中学校第3学年までの国語、算数・数学、理科のワークシート(現在約2,400シート)を児童生徒の学習端末に提供した。 ○小学校第5学年および中学校第2学年の児童生徒の学習端末に、国語、算数・数学の課題のある基本的な問題(2月1日から3月25日まで。毎日1問。5~10分程度でできる問題)を提供した。	小中学校 教職員  小中学校・特別支援学校の児童生徒	教育委員会事務局 学力向上推進PT
みえ子どもの元気アップ体力向上推進事業	子どもたちが運動の楽しさや喜びを知り、運動することが好きになるよう、研修会等をとおして指導の工夫や改善を図った。さらに、学校・家庭・地域が主体となって子どもたちが運動する機会を増やすよう取り組むとともに、生活習慣の改善を総合的に推進し、体力向上に向けた取組を継続的に進めた。なお、就学前教員対象研修会、小学校教員対象研修会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催とした。 ○就学前教員対象研修会 2月 24名参加 ○小学校教員対象研修会 8月 364名参加 ○中・高等学校研修会 3月 7名参加	就学前・小学校・中学校・高等学校の教員および児童生徒、幼児と保護者、市町等教育委員会等	教育委員会事務局 保健体育課
元気アップブロック別協議会	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における三重県の結果から、体力向上の取組成果と課題について情報を共有し、各学校が令和4年度の目標や計画を設定する「みえ子どもの元気アップシート」の作成取組について説明した。また、効果的な1学校1運動を提示し、本県の不得意種目を克服するため、各校の取組事例等、グループ協議による好事例を共有した。 ・3月14日、15日 計480名参加	小学校・中学校・高等学校の教員、市町等教育委員会等	教育委員会事務局 保健体育課
運動部活動サポーター派遣事業	中・高等学校の部活動に、地域のスポーツ指導者を外部指導者として派遣し、部活動の取組を充実させた。 (県立高等学校37校に対し延べ51人を派遣)	地域のスポーツ指導者	教育委員会事務局 保健体育課
運動部活動指導員配置促進事業	中学校(文化部を含む)・高等学校の運動部活動に、教育に対する理解及び専門的指導力を備えた地域の指導者を、運動部活動指導員として配置することで、顧問教員の負担軽減や運動部活動の充実・活性化を図った。 (中学校52校に対し74人配置、県立高等学校21校26人を配置)	地域のスポーツ指導者	教育委員会事務局 保健体育課
武道等指導充実・資質向上支援事業	中学校における武道・ダンスの必修化に伴う課題を解決するため、安全に配慮した指導ができるよう、専門性を有する地域の武道・ダンス指導者を外部指導者として中学校に派遣し、保健体育科における武道・ダンス授業の充実を図った。 (中学校19校に対し26人(実人数))	地域のスポーツ指導者	教育委員会事務局 保健体育課
子ども読書活動推進会議	「第四次三重県子ども読書活動推進計画」に基づく県の取組や課題について、各委員の専門的な知識や実践をもとに読書活動推進のための幅広い意見を聴取するとともに、県の推進計画の進捗状況の定期的な管理と新たな推進施策について提案・検討のための会議を開催した。 (2回)	三重県子ども読書活動推進会議委員	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
地域学校協働活動推進のためのコーディネーター養成講座	地域学校協働本部関係者、コミュニティスクール関係者、教職員等を対象に地域が学校と連携・協働して地域を創生する「地域・学校協働活動」の中核を担う地域学校協働活動推進のためのコーディネーターの育成を図るため養成講座を実施した。 (4年間で8回計画：本年1年次、7月16日、10月18日：延べ参加者数119名)	地域学校協働本部関係者、コミュニティスクール関係者、教職員等	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課



取組名	取組概要	対象	担当課
フォローアップ講座	コーディネーター養成講座認定者にさらなる学びの場とネットワーク作りのため、当該地域の課題に気づく場を設けるとともに、各地域の課題を明らかにし、受講者同士で考え、解決の道筋を学ぶ場を2回行った。(11月30日、2月25日：延べ参加者数36名)	地域学校協働活動推進のためのコーディネーター養成講座の認定者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
少年相談110番	少年や保護者等から家庭問題、交友問題、学校問題、犯罪被害等の悩みや困り事の相談に応じ、必要な指導・助言を行った。 ・フリーダイヤル ・相談時間：祝祭日、年末年始を除く月から金曜日9時から17時 (相談件数：33件)	子ども、保護者、教職員等	警察本部 少年課
「三重県版コネクションズ」による非行少年の立ち直り支援等	家庭、学校、交友等の周囲の環境や自身に問題を抱えた少年に対し、少年警察協助手、大学生ボランティア等の少年警察ボランティアや関係機関・団体等と連携し、農業体験や社会奉仕体験活動等の立ち直り支援に取り組んだ。 (支援対象少年：8人、支援回数：23回) ※令和3年1月～12月	非行少年被害少年	警察本部 少年課
インターネット上の違法・有害情報から少年を守る対策	インターネット利用に起因する児童の犯罪被害を防止するため、携帯電話販売店に対し、スマートフォン等販売時に使用者が子どもである場合には保護者に対するフィルタリングの説明・推奨等を徹底するよう要請した。 (携帯電話販売店：延べ12店舗) ※令和3年1月～12月  非行防止教室等を通じ、児童・生徒、保護者等に対してインターネット利用に潜む危険性やフィルタリングの必要性、家庭でのルールづくり等の啓発を実施した。 (インターネットに係る非行防止教室実施回数：延べ163回、参加者数：延べ18,557人、うちリモート教室 4回、462人)	携帯電話事業者 小学生～高校生、専門学校生、保護者および教員	警察本部 少年課
インターネットの適正利用の推進	児童生徒に関わるインターネット上の問題ある書き込みを検索するネットパトロールについて、例年実施している年3回(平日15日間を3回)に加え、新型コロナウイルス感染症に係る不適切な書き込み等の検索を、平日の毎日実施した。さらに、ネットパトロールでは検知が難しい、SNSなどでの閉ざされたやりとりにおいて、不適切な書き込みを発見した場合に、県民の方が、その内容を投稿できるアプリ「ネットみえ～る」を運用した。把握した書き込みは学校や市町教育委員会、警察等の関係機関と連携して対応した。	児童生徒 教職員 保護者	教育委員会事務局 生徒指導課
「非行防止・薬物乱用防止教室」の開催	少年の規範意識を向上させるため、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等を訪問し、非行防止教室や薬物乱用防止教室を開催した。 (実施回数：延べ340回、参加者数：延べ33,046人、うちリモート教室13回、1,001人)	幼児～高校生、大学生、専門学校生、保護者および教員	警察本部 少年課
学校薬剤師による薬物乱用防止教室「くすりの正しい使い方教室」	覚醒剤や大麻などの違法薬物の乱用だけでなく、医薬品を医療目的から逸脱した用量や用法などの医療目的以外で使用することも薬物乱用であるため、薬局等で購入できる一般用医薬品などのくすりの服用方法や副作用などくすりの正しい使い方について、学校薬剤師が薬物乱用防止教育の一環として薬物乱用防止教室を実施した。 (実施校数：123校)	小学生(高学年)～高校生	医療保健部 薬務課
薬物乱用防止教育認定講師等による薬物乱用防止教室「ダメ。ゼッタイ教室」	ライオンズクラブ国際協会334-B地区と公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターが共同で認定した薬物乱用防止教育認定講師等が実施した。 啓発用ビデオやCD-ROMを活用した薬物乱用防止教育と地域のおじさんやおばさんとして、人生の豊富な経験を生かし「語り部」として、生き方「ライフスキル」を小中高生に伝えた。 (実施校数：90校)	小学生～高校生	医療保健部 薬務課

取組名	取組概要	対象	担当課
青少年健全育成協力店運動	「三重県青少年健全育成条例」に基づき、関係機関と連携して子どもを有害環境から保護する取組を進めるとともに、立入調査を実施した。 (子どもの利用の多い店舗のうち青少年健全育成協力店の割合：99.3%(令和4年3月末現在))	大人	子ども・福祉部 少子化対策課
子ども農山漁村ふるさと体験推進事業	農山漁村でのふるさと体験活動を通じて、小学生～大学生に学ぶ意欲や自立心を育み、その力強い成長を支えるため、受け入れ地域の体制整備や体験指導者の育成を行った。 (受入地域16地区)	農山漁村地域の大人	農林水産部 農山漁村づくり課
防犯ボランティア団体等との連携による子ども見守り活動等の推進	「防犯ボランティア団体物品支援事業」により、防犯ボランティア団体に対して防犯活動用物品の配布等の支援を行った。また、政府において策定された「登下校防犯プラン」に基づき、事業所等が通学路等において、平素の活動を通じて子供の見守りを行う「ながら見守り」の実施を働き掛けたほか、三重県警察認定「子ども安全・安心の店」の拡大など、子どもの安全を確保する活動の活性化を図った。 (防犯ボランティア団体物品支援事業対象団体数：15団体、子ども安全・安心の店認定数：1,337事業所)	防犯ボランティア団体のほか、ボランティア活動に従事する事業所等	警察本部 生活安全企画課
「交通安全アドバイザー」の派遣	保護者、学校関係者等が、日常生活の中で模範的な行動をとり、歩行中、自転車乗用中等実際の交通の場面で、子どもに対し、交通ルールや交通マナーを教えられるよう「交通安全アドバイザー」による参加・体験・実践型の交通安全教育を推進した。 (7回、保護者：107人) また、「自転車って?」「ヘルメットの大切さ」と題した交通安全教育動画を作成し、YouTube三重県警察公式チャンネルに掲載した。	幼児・小学生、保護者および高齢者	警察本部 交通企画課
交通安全指導者講習会	小学校、中学校、高等学校の教員を対象に、児童・生徒に対する自転車の乗り方等の交通安全指導を行う指導者講習会を実施した。 (開催日：10月5日、10月12日、参加者数：31人)	大人(教員)	環境生活部 くらし・交通安全課
働きやすい職場づくり事業	誰もが働きやすい職場づくりを目的に、残業時間の削減や休暇の取得促進、育児や介護をしながら働き続けられる職場づくりなどに積極的に取り組む企業等を登録するとともに、特に優れた実績を有する企業等を表彰し、併せて優れた取組事例を広く紹介した。 (令和3年度登録数：126社、表彰：5社、表彰式：3月25日開催)	企業等	雇用経済部 雇用対策課
働き方改革取組拡散事業	働き方を見直し、企業におけるワーク・ライフ・バランスを促進するため、セミナーの開催や優良事例の紹介などによる普及・啓発を行った。 【セミナー等の開催】 ○働き方改革セミナー 9月2日(オンライン開催)80名参加 ○働き方改革取組中間成果共有会 12月13日(オンライン開催)7社参加 ○取組成果共有会及びセミナー 2月8日(オンライン及び会場開催)45名参加	企業等	雇用経済部 雇用対策課
教員のための博物館の日2021	三重県教育委員会、三重県立美術館と連携しながら、幅広い層の教員の皆さんに博物館に親しんでいただくとともに、貸出教材や出張講座など博物館の資料や活動を、授業で活用できる学習資源として知っていただくことを目的に実施した。 ・開催内容 ①三重県総合博物館概要説明②アウトリーチ活動の紹介③三重県立美術館の教育プログラム説明④施設見学、常設展見学⑤博物館を活用した授業づくり (開催日：12月24日、参加者数：20名)	大人(教員)	環境生活部 総合博物館